



アイスプラントの苗



志田園芸で説明を受けました

らえるようなそんな新しい野菜の導入に余念がないようであり、最後の訪問地は千葉

市若葉区下田町の「ファーマーズマーケット」であり、ここでは障害のある人への優しい取り組みとして、県から事業者としての認定を受けたハウス栽培（水耕）が行われている所です。経験豊かな農家の指導を受けながら、知的障害や精神障害を抱える10名のスタッフが伸び伸びと生産作業に従事していました。また、生産活動が始まって間もないことから、水の管理や栽培技術など戸惑うことも多かったようであり、今では「サラダこまつ菜」を周年契約栽培で大手量販店に出荷できるまでになったようであり、生産活動が軌道に乗ったことから訪問時にはハウスの増棟工事が行われていました。



サラダこまつなのハウス棟

動向や経済状況あるいは農業事情等をよく勉強され、それぞれがしっかりとした理念を持って事業展開しており、中には本町でもと考えさせられるような大変参考になるところもありました。特に、先輩議員が研修先で活発に質問、意見交換し、今後の八峰町発展のために学び取るうとする姿勢は非常に参考になるものでした。



- 研修参加者**
- 芦崎 達美
 - 丸山 あつ子
 - 門脇 直樹
 - 福司 憲友
 - 阿部 栄悦
 - 鈴木 一彦
 - 皆川 鉄也



ファーマーズマーケット下田農場で記念撮影

お詫びと訂正

10月7日に発行した議会だよりNo.22に誤りがあり、お詫びし、訂正いたします。

訂正箇所

7ページ柴田正高議員一般質問、「狩猟免許を持つ職員を育成せよ」の答弁

誤 職員が免許を取得した場合、銃の保管など難しい問題があり、正職員以外の方に免許を取得してもらう方向で検討している。

正 職員が免許を取得した場合、銃の保管など難しい問題がある。藤里町では正職員以外の方に免許を取得してもらう方向で検討している。(以下省略)

研修レポート

森のアワビ・先進農業視察研修報告

報告者 八峰町議会議員 皆川 鉄也

■第1日目(10月25日)

「森のアワビ」の商標登録を持つ八王子市散田町の株式会社「エクスセル」を訪問。担当の方からの説明によると、野菜栽培や魚の養殖では広大な場所や土地が必要であるが、あまり泳ぎ回らないアワビは大きな水槽や土地も必要がないこと、単価にも恵まれていること、赤潮や台風被害を考慮し、海からは完全に切り離れた養殖計画が始まったとのこと。正に異業種ならではの斬新な考えであると思えます。

アワビは汚れに弱いため、排出物の処理や人工海水を使用することで塩の値段が高いこと、又餌はワカメを与えているためコストが掛かり過ぎること、生存率や成長のばらつきなどの課題も多いが味は天然物と変わりないとのことから、これからの



㈱エクスセルにて説明を受けました



森のアワビが養殖されてる部屋

研究を重ね、海を汚さず陸上で安価な海産物の養殖が可能になれば消費者にも喜ばれるのではとのことでありました。

■第2日目(10月26日)

塩味のする新野菜「アイスプラント」の栽培に取り組んでいる千葉県佐倉市の志田園芸を訪問し、志田英巳氏から2007年佐賀大学によって吸塩植物「バラブ」の栽培研究が進められており、利用価値があるのではと導入の経緯について説明がありました。

当初、佐賀大学で補助事業によって研究を進めていたため苗、種子とも門外不出とされていたので入手は困難でできなかった。光合成の試験に使用される植物に吸塩性があることが判明し、写真で紹介したところ同一作物と確認された。販売店はドイツの会社とわかり種子を輸入し、2008年より志田園芸から種子、苗が販売されタキイ、サカタなどの各ホームセンターから普及しはじめる。

ハウスには苗よりなく試食は叶わなかったが中性脂肪を抑制する効果や新食感の高級野菜として栽培者も増加傾向にあるそうです。ちなみに秋田では、霜が降りる前か春に収穫できるような栽培形態が適しているとのことであり、勇気のある方は取り組んでみては。

又、志田氏は大変研究熱心な方でそろそろアイスプラントもかなり普及しはじめたので、次は牡蠣の匂いのする野菜を販売戦略として考えておるようであり、(試食済)他にもドラゴンフルーツや木の幹になる果物等もハウスの中で栽培されておるのが見学できました。

先見的な考え方の持ち主で、まだ市場に出回っていない、出荷されていない、しかも消費者に感心をもって